

## 観光ボランティアガイド 活動に夢を託して

谷 善一さん（登別本町）



2008年を迎え、昨年1年間を振り返って見ると、慌ただしい年でもありました。

わたしは、登別温泉の観光ボランティアガイドとして活動しており、5月から始まった活動も10月で終了しました。

昨年も多くの方が登別温泉に訪れました。年々国際色が豊かになり、特に中国や韓国、台湾、香港など、アジアからの観光客が増えています。ボランティアガイド会では、48人の会員が毎日交代で、観光に訪れた方に歓迎の精神で地獄谷、大湯沼、足湯へと案内しています。

わたしの何よりの喜びは、訪れた方が「登別温泉に来て本当に良かった」と言ってくれることです。

9・10月には、温泉入浴体験で登別温泉を訪れた市内小学校（全8校）の3年生合わせて47人や、市が行っている市民見学会もガイド会でご案内しました。

本年も、皆さまから喜んでいただける観光ボランティアガイドとして頑張っています。

## 国を代表する者として

原 菜月さん

（登別明日中等教育学校1年生）



わたしは、今年1年間は政治に関するニュースが多かったと思う。それは、いいこと、悪いことさまざまであり、国民の反応もさまざまであった。

その中でも、国会議員の失態に目を向けてみた。

まず思い出したのは、『なんとか還元水』騒ぎだ。議員の口から飛び出したこの言葉は、大きな波紋を広げた。

また、これ以外にも議員たちの言動で国会やマスコミ、世間を騒がせたものがいくつもあった。

最近では、防衛省の前事務次官が接待を幾度にも渡って受けていたことが問題になっている。

わたしは、このようなニュースを何度も見るたびに、不快な思いがする。ただでさえ、殺人や誘拐、虐待、強盗などがあり、不安定な世の中なのだ。

これ以上世の中を乱すことは許されなと思う。国会議員という立場からしても。ましてや、国民に選ばれた者なのだから。

こういう人たちには、もっと自覚を持ってほしい。国を代表する者として。

## 登別市のすばらしさ

須釜 慕さん（千歳町出身）



▲右から2人目が須釜さん

わたしは、現在、書道を専攻している大学生で、初めて登別を離れる年になります。

わたしが今住んでいる市は、緑が多く、公園はとも整備されていてごみなどはほとんど落ちていません。

また、郊外には大型チェーン店がぞくぞくと建設されていますので、そういう意味では、とても住みやすいまちと言えるかもしれません。

でも、時々息苦しさを感じることはありません。登別はぐるり見回すと、海や山、川、そして負けないくらい緑もあります。わたしの実家付近では、ヘビやキツネ、キジ、リスなど、いろいろな動物を見ることができ、これほど恵まれた自然の中で育ったのかと、いまさらながらに故郷登別市の素晴らしさを感じています。



世界のいたるところで自然が失われつつありますが、まず自分の市や町を大切にしなければと、ますます思うようになりました。

わたしは、現在登別市には住んでいませんが、どこにいても常に登別市を思っていたいし、何よりもこんなに素晴らしい市ですから、心から誇りに思うでしょう。